

3 . 流域の社会状況

3 . 1 土地利用

黒部川流域は、山地面積が約 99%を占めており、平地面積はごくわずかである。そのため流域内の土地利用は、宅地等の市街地はほとんどなく、水田や畑地等の耕作地も約 0.1%しかない。一方、中部山岳国立公園などの自然公園地域の割合は約 41%を占めており、豊かな自然に恵まれた流域であることがうかがえる。

表 3-1 黒部川流域地形別面積（調査基準年：平成 7 年度末）

	流域全体	山地	平地
面積 (km ²)	667.4	657.9	9.5
構成比 (%)	100	98.6	1.4

流域全体面積は下流水路面積を除く

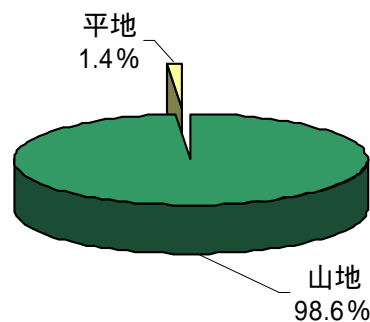


図 3-1 黒部川流域地形別面積比率（調査基準年：平成 7 年度末）

表 3-2 黒部川流域土地利用別計画面積（調査基準年：平成 7 年度末）

	流域全体	都市地域	農業地域	森林地域	自然公園地域	自然保全地域
面積 (km ²)	1113.6	0	1.5	653.9	458.1	0.1
構成比 (%)	100.0	0	0.13	58.73	41.13	0.01

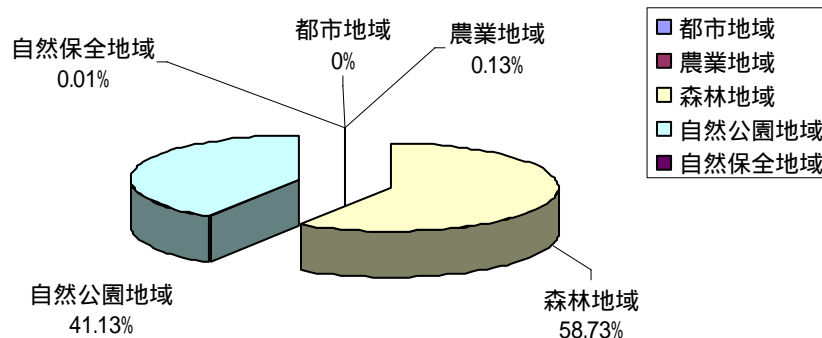


図 3-2 黒部川流域土地利用別計画面積（調査基準年：平成 7 年度末）

3.2 人口

黒部川流域の自治体構成は、黒部市、富山市、入善町、朝日町、立山町の2市3町となっている。流域内に山地を多く抱えていることや、5市町の市街地の多くが他河川の流域に位置していることなどから、流域内人口は約3,000人(平成7年河川現況調査)と少ない。

しかし、流域とは別に氾濫域で人口を見た場合、黒部川扇状地に位置する関係市町(黒部市、入善町、旧宇奈月町、朝日町)の合計は約86,000人であり、戦後から現在まで、ほぼ横ばいの傾向である。一方、世帯数は増加傾向にあり、老人の一人暮らしや核家族化が進んでいることがうかがえる。

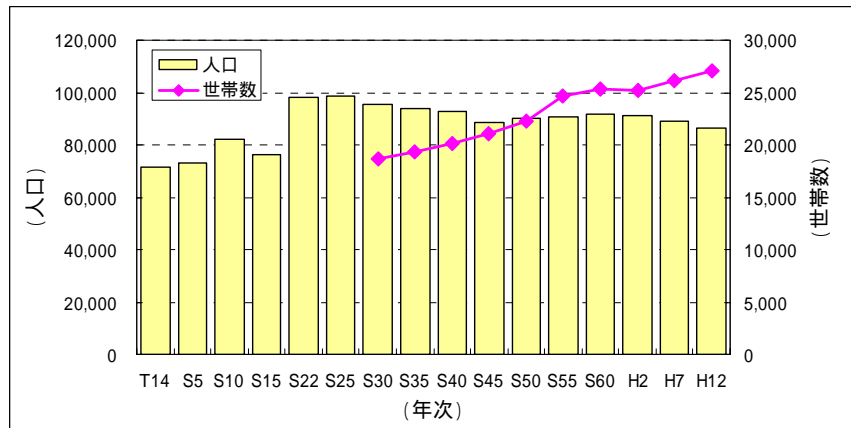


図 3-3 関係市町人口・世帯数の推移

表 3-3 関係市町の人口の推移

	T14	S5	S10	S15	S22	S25	S30	S35
黒部市	22,693	23,510	23,460	23,429	31,845	32,329	31,216	31,968
(旧宇奈月町)	8,738	7,761	17,048	10,049	9,698	9,523	9,480	10,885
入善町	22,181	23,273	23,723	24,384	31,869	32,262	30,421	29,658
朝日町	17,849	18,651	18,012	18,502	24,540	24,722	24,256	21,343
計	71,461	73,195	82,243	76,364	97,952	98,836	95,373	93,854

	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
黒部市	32,821	33,438	34,451	35,443	36,135	36,493	36,414	35,531
(旧宇奈月町)	10,198	8,409	7,887	7,653	7,453	7,261	7,025	6,553
入善町	28,548	27,638	28,542	29,163	29,551	29,625	28,886	28,267
朝日町	21,011	19,311	19,083	18,631	18,819	17,569	17,007	15,915
計	92,578	88,796	89,963	90,890	91,958	90,948	89,332	86,266

【出典：富山県統計年鑑】

表 3-4 関係市町の世帯数の推移

	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
黒部市	6,119	6,588	7,180	7,721	8,307	9,833	9,810	10,152	10,688	11,490
(旧宇奈月町)	1,824	2,027	2,037	2,108	2,092	2,459	2,389	2,373	2,373	2,286
入善町	5,859	6,082	6,276	6,518	6,943	7,381	7,525	7,691	7,953	8,258
朝日町	4,838	4,650	4,673	4,780	4,864	4,969	5,545	5,005	5,179	4,986
計	18,640	19,347	20,166	21,127	22,206	24,642	25,269	25,221	26,193	27,020

【出典：富山県統計年鑑】

3.3 産業・経済

流域の産業は、黒部峡谷や宇奈月温泉に代表されるように観光産業が主力となっているため、労働力人口の構成比も7割強が第三次産業となっている。その事業所数も242箇所（平成7年河川現況調査）となっている。

表 3-5 流域内の労働力構成

労働力人口	全産業人口	第一次産業	第二次産業	第三次産業
1,905	1,837	31	458	1,348
(100%)	-	(1.6%)	(24.0%)	(70.8%)

【出典：平成7年河川現況調査】

黒部川流域では古くから電源開発が行われており、大正12年12月の弥太蔵発電所を皮切りに、現在では18箇所の発電所が稼働し、総最大出力約97万kWの電源供給が行われている。この電力量は、流域関係市町の約2万7,000世帯を大きく上回る約225万世帯が1時間に使用する量に相当する。

一方、下流部の黒部川扇状地の関係市町だけを見た場合には、第二次産業と第三次産業の就業者数が同程度にあり、就業者数の経年変化もほぼ横ばいにある。この第二次産業の中には、黒部川の豊富な水と安価な電力を活用した全国屈指のアルミサッシ等の軽金属産業や出荷額世界一位のファスナー等の非金属産業の生産等も含まれている。

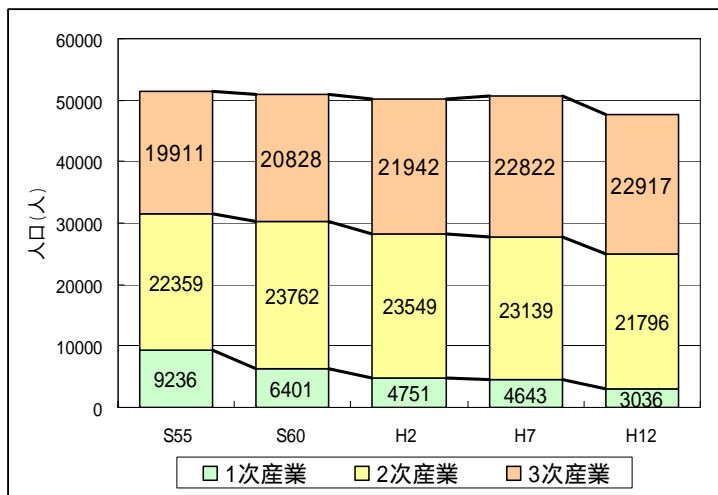


図 3-4 関係市町の産業就労人口の推移

【出典：国勢調査】



【出典：黒部河川事務所】

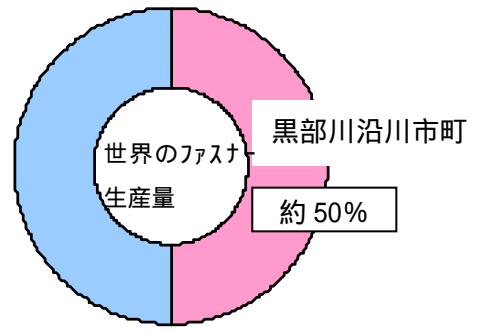


図 3-5 関係市町のファスナー生産出荷率

【出典：富山県統計年鑑 平成 15 年】

一方、第一次産業の労働力人口は減少傾向にある。黒部川扇状地内における業種の内訳は、農業と海面漁業に大別され、農業は稲作を中心に約 8,300ha で作付けされている。このかんがい用水には黒部川の水が利用されている。一方、海面漁業の水揚げ量は 1.5 万 t (H15 富山統計年鑑における黒部市、入善町、朝日町の総量) となっている。

3.4 交通

広域交通網としては、一般国道8号・北陸自動車道の道路や、JR北陸本線・富山地方鉄道の鉄道が整備され、現在、北陸新幹線の整備も進んでいる。また、地域内では、黒部川沿いを主要地方道や富山地方鉄道が縦断する形で結んでいる。さらに、宇奈月温泉街から上流へは、黒部峡谷鉄道がトロッキ電車を運行しており、年間50万人もの観光客が利用している。



図 3-6 黒部川流域の交通網